
第2回海外留学報告

野間裕太

PhD 生活も一年目が終わりに近づいています。豊田理研の皆様のご支援と、支えてくれている家族や友人に感謝いたします。

トロントは6月、ようやく暑くなっています。4月頃からは寒さも落ち着いてきて、ようやく外に出かけることができる季節になりました。トロントに限らず、北米にはテラス席のある飲食店が非常に多く、青空の下でビールを飲むことができ非常に気持ちが良いです。トロントの夏は、日本と比べると圧倒的に涼しいですが、他の地域で育った北米人からするととても湿度が高く、暑いと感じるようです。

1 研究面

5月に SIGGRAPH Asia という学会の締切があり、そちらに2本、筆頭で論文を提出することができました。前回リジェクトになってしまった論文の修正版を1本と、新しい論文を1本提出しました。

特に前回リジェクトされた論文が非常に難産で、そもそもストーリー全般から見直すことになってしまいました。前回の投稿版では、この技術が何に使えるのかという点について、必要以上にオーバーに主張していたことをレビューで指摘されてしまっていました。今回は特定のアプリケーションに目的を絞り、新しいストーリーに合わせた実験をすることで、何とか形にすることができました。

この過程で、指導教員と他の共著者に大きく助けて

Yuta Noma, University of Toronto, トロント大学.



図1 トロントの桜。関山という品種で、日本では江戸時代まではよく見られたものの、明治以降に急速に数を減らしたそうです。

もらいました。特に、この技術がどう有用なのかをわかりやすく説明するのが難しく、イントロも何回も一緒に書き直して、一番良い記述を探しました。また、比較しないといけない手法の数もかなり多く、純粋な作業量の意味でもとても大変でした。

ちょうどこのレポートの締切の辺りにレビューが返ってきて、2本とも概ねポジティブなスコアでした。SIGGRAPH では、著者がレビューの内容に対する反論や質問回答を行う「リバトル」を提出し、これを元にレビュワーがスコアを修正し、最終的な採否が決まります。リバトルが点数を下げないことを祈りつつ、採否の連絡を待ちたいと思います。

この経験を通じて、自分の研究経験の幅がとても



図 2 ケベックシティの旧市街。

広がったと思います。これまでの自分の研究は、これまでに存在しない新しい問題を解いており、先行研究との比較が容易な分、テーマがニッチでインパクトも限られていたように思います。今回の論文では、先行研究が割と充実している問題に対する向き合い方、特に「実験データを通じて仮説を示す」というマインドセットを学ぶことができたと思います。

2 その他

5月に論文を提出した後は達成感に溢れ、一ヶ月ほどは溜まっていた雑務をこなしつつ、旅行に行ったりトロント市内を回ったりしていました。6月上旬にケベック州へ行き、ケベックシティやモントリオール、オタワなどを回りました。特にケベックシティはカナダで最も古い街の一つで、18世紀のフランス系移民の開拓の痕跡が残る、非常に面白い街でした。ケベック料理という、先住民の食材をフランス風・アメリカ

風に味付けする料理があるのですが、これも非常に美味しかったです。

研究以外では、現地の高校生を対象にしたアウトリーチイベントに、ボランティアとして参加しました。このイベントでは、高校生に対して我々の研究内容を紹介しつつ、一部研究に関わるような実習に携わってもらい、その内容についてプレゼン発表してもらいました。線形代数を学んでいない高校生に技術的な内容をわかりやすく説明するのは結構難しく、良い勉強になりました。

ラボのメンバーとは、相変わらずホームパーティーをしたりカラオケに行ったり飲みに行ったりなどしています。同分野の他の大学のラボと比較しても、トロント大学のDGPラボはとても仲が良いと思います。DGPラボには、グラフィックスだけでなくHCIやビジョンなど他の分野の学生がたくさんおり、毎日刺激を受けています。今度日本からも一人留学生が来る予定で、とても楽しみにしています。

先輩の学生が数名卒業して行きましたが、とりわけ直近は採用市場が非常に冷え込んでおり、厳しい就活をしていた学生が多かったです。特に、AI分野でど真ん中の研究をしている人材に採用を絞っている企業が多く、それ以外の多くの学生は煽りを食らっていたようです。世界トップレベルの業績の先輩ですら就活で苦戦していて、現実の厳しさを感じました。とはいえ、最終的には全員ビッグテックやトップ大学でポジションを得ていたため、心配しすぎることはないのかもしれません。

今後も体調に気をつけて、長い冬が来る前の短い夏を楽しみたいと思います。